

グラフィック社・3月の新刊

白崎俊次が写した手仕事の記録
1958-1982 <東日本編>

『民芸手帖の時代』

東京民藝協会 著



高度経済成長期、日本が豊かさを追い求めた時代、失われつつある手仕事の原風景がまた息づいていた。
昭和33年、東京民藝協会により創刊された月刊機関誌『民芸手帖』。編集者・白崎俊次は25年、295号にわたり、日本全国の手仕事、民俗、風俗を記録し続け、6万点に及ぶ膨大なフィルムを残した。

昭和33年創刊の機関誌『民芸手帖』。名編集者・白崎俊次は25年にわたり全国の産地を精力的に歩き、職人の手仕事や暮らしをフィルムに収め続けました。本書は彼が遺した6万点のネガから厳選した写真を再構成した、他に類を見ない貴重な記録です。高度経済成長期の陰で失われつつあった陶磁や染織、編組の制作現場、そして美しき村々の素朴な日常や風俗。長らく眠っていた膨大な資料が、当時の熱量そのままに鮮烈に蘇ります。柳宗悦の志を継ぐ民藝の精神を今に伝える、工芸・民俗学・昭和史ファン必携の決定版となる一冊。

東京民藝協会 著 / 定価: 本体3,800円(税別) / B5変形判 / 並製 / 320ページ

編組

木漆工

織物・染物



近代化で消えた産地の熱き鼓動。民藝の歴史を繋ぐ、生身の全記録。

和紙

陶磁

風土風物



2026/11
「西日本編」
刊行予定!

地区	書店コード	書名	注文数
書店印	新刊	『民芸手帖の時代』 白崎俊次が写した手仕事の記録 1958-1982 <東日本編> 東京民藝協会 著 ISBN978-4-7661-3882-5 C0072 B5変形判/320p 定価: 本体3,800円(税別)	冊